

施策No.	政策名	豊かな心と生きがいを育む教育・文化づくり	主管課	スポーツ振興課
304	施策名	生涯スポーツ活動の振興	関係課	健康推進課、学校教育課、生涯学習課

1. 施策の目的と成果把握

目的	施策の対象	対象指標名	単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	市民	①桜川市人口		人	見込値			45,122	44,571	44,020	43,190	42,571	41,952
実績値					46,575	45,673	45,105	44,449	43,826	43,190	42,444		
見込値													
実績値													
的	施策の意図	成果指標名	単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	スポーツを通じて健康で明るい豊かな生活が出来る	①週1回以上スポーツを行っている市民の割合	%	目標値			35.0	38.0	41.0	44.0	47.0	50.0	
実績値				36.3	33.8	33.9	33.1	31.2	34.8	39.4			
②スポーツを通じて健康で明るい生活を送っている市民の割合		%	目標値			74.0	75.5	76.5	78.0	79.0	80.0		
			実績値	66.7	70.3	65.1	65.1	65.3	62.4	63.9			
成果指標設定の考え方	○スポーツを通じて健康で明るい豊かな生活が出来るかは、アンケートにより、①「週1回以上スポーツを行っている市民の割合」(実施率)と、②「スポーツを日常的に行っている市民の中で、「スポーツを通じて健康で明るい生活を送っている」と答えた市民の割合」において把握する。												
	成果指標の把握方法と算定式等	○対象の人口は、毎年10月1日の常住人口。 ○スポーツ実施率は、1週間に1回以上(30分程度以上の運動、軽スポーツ含む)スポーツをしている市民の割合(市民アンケートによる)。 ○スポーツを通じて健康で明るい生活が送れていると感じていますか。(市民アンケートによる)											

2. 施策の役割分担と状況変化

役割分担	1)住民(事業所、地域、団体)の役割(住民や地域、行政と協働でやるべきこと) ○自分の健康は自分で守るという意識を持ち、地域のスポーツ活動に積極的に参加する。 ○地域のスポーツ活動における指導者として活動する。	2)行政の役割(市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと) ○スタッフの確保や人材育成、スポーツ施設の充実、市民への普及啓発等、市民がスポーツ活動を行いやすい環境を整備する。
	3)施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は今後どのように変化するか? ○これまではスポーツ振興法に基づき施策を行ってきたが、新たにスポーツ基本法(H23/6/24公布)が制定された。基本法では国民はスポーツを通じて幸福で豊かな生活を営む権利を有し、スポーツ施策の推進を行政の責務と明確に謳っている。 ○健康志向の高まりにより、特に高齢者層でスポーツをする市民が増えると考えられるが、少子高齢化やスポーツ離れにより若年層で減ると考えられる。 ○体育施設の維持活用などは、新規種目の増加や健康志向などにより、夕方から夜にかけての施設利用が増えているため、地域的に飽和状態であり、効率的な利用が必要となっている。	4)この施策に対して住民、議会からどんな意見や要望が寄せられているか? ○施設や機器の老朽化が気になるとの意見がある。 ○平成24年3月の後期総合計画時のアンケートの結果によれば生涯スポーツ活動の振興の優先度調査から優先度は、低いが満足度については、やや高くなっている。

3. 基本事業の目的と指標

基本事業名	対象	意図	成果指標	区分	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
① スポーツをする機会の充実	市民	スポーツに取り組んでもらう	週1回以上スポーツを行っている市民の割合	実績値							
				%	33.8	33.9	33.1	31.2	34.8	39.4	
② スポーツ施設の充実と有効利用	施設	多くの人に快適に利用してもらおう	市のスポーツ施設利用者数	実績値	292,954	183,538	278,747	278,439	261,027	276,825	
				人							
③ スポーツ団体の充実とリーダーの育成	市民	スポーツ団体が充実する	①体育施設利用団体数	実績値	193	198	198	200	199	184	
				団体							
				実績値	178	185	185	192	178	196	
			②指導者数	人							

4. 施策のコストの実績(施策を構成する事務事業シートより積算)

項目	単位	26年度実績	27年度実績	28年度予算
①本施策を構成する事務事業の数	件	35		35
②施策事業費(一般財源以外)	千円	26,391		14,326
③施策事業費(一般財源)	千円	138,144		105,987
④施策事業費の計(②+③)	千円	164,535		120,313
⑤施策人件費(事務事業の人件費合計)	千円	32,642		36,419
⑥計(④+⑤)	千円	197,177		156,732

5. 施策に関連する主要事業等

区分	事務事業名	摘要
主要事業	岩瀬運動公園長寿命化事業	後期基本計画主要事業
主要事業	真壁体育館耐震補強事業	後期基本計画主要事業
事務事業	総合型地域スポーツクラブへの支援事業	H27貢献度上位、H28優先度上位
事務事業	体育協会助成事業	H27貢献度上位、H28優先度上位
事務事業	スポーツ推進委員運営事業	H27貢献度上位、H28優先度上位

施策番号	304	施策名	生涯スポーツ活動の振興	主管課	スポーツ振興課
------	-----	-----	-------------	-----	---------

6. 施策の成果水準とその背景・要因

1)①現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した	<input type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した	<input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	
背景・要因	<p>○スポーツ実施率(週1回以上スポーツを行っている市民の割合)は、22年度から26年度まで33.8%、33.9%、33.1%、31.2%、34.8%とほぼ横ばいでしたが、27年度39.4%で昨年度より4.8ポイント上昇した。毎日実施している人の割合は15.2%から18.0%と上昇しており、習慣的に運動をしている愛好者は根付いているようである。また、スポーツをしている人の中で、スポーツを通じて健康で明るい生活を送っている市民は22年度の70.3%を除けば、21年度が66.7%、23・24年度が65.1%、25年度は65.3%と横ばい状態であり、26年度に62.4%と一度下がったが、27年度は63.9%と少し戻った。スポーツ実施率を主に見ると、少し向上していると思われる。</p> <p>○地区別のスポーツ実施率では、岩瀬地区が40.2%、真壁地区39.9%、大和地区が37.5%となっており、大和地区がやや低い値であった。スポーツを通じて健康で明るい生活が送れている人の割合の地区別では、岩瀬地区が63.1%、真壁地区が65.0%、大和地区が60.7%となっており、こちらも大和地区が低い数値を示した。</p> <p>○年齢別の実施率は、10代38.9%、20代32.6%、30代25.5%、40代30.6%、50代30.9%、60代47.9%、70歳以上58.4%であった。20代から50代が全体の数値より低いが、60歳以上となると実施率は高く、20代から50代の方は仕事・子育ての関係から実施率が低いと思われるが、60代以上は勤めの影響がなく、この数年力を入れている「総合型スポーツクラブ」などの取り組みが、健康志向と相まって成果が出てきていると考えられる。</p> <p>○スポーツ施設の延べ利用者数は、23年度に18万人と震災により上半期の間、施設を使用できなかったため少なかつたが、24年度からは、26万から27万人弱の利用人数であり、人口が減少しているわりには横ばい状態を保っている。</p> <p>○体育施設利用団体数は27年度184団体と前年度から15団体少なくなった。要因は、高齢者の団体以外は、人口減や少子化によるところが大きいと思われる。</p> <p>○指導者数は、27年度196人と前年度より18人増えている。27年度より、スポーツ少年団1団体に2人以上の認定指導者が必要となってきたため、講習会に参加して認定指導者となる人が増えたためである。</p>		

1)②成果目標の達成状況

実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値を大きく上回った	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてが上回った	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った
	<input type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った	<input checked="" type="checkbox"/> すべての成果指標で目標値を下回った
背景・要因	<p>○週1回以上のスポーツ実施率の目標値47.0%に対して39.4%と7.6ポイント下回っている。</p> <p>○スポーツを通じて健康で明るい生活を送るについては、目標値79.0%に対して63.9%と15.1ポイント下回っている。</p> <p>○平成22年10月に総合型スポーツクラブ「スマイルクラブ」が設立し、順調な運営を行なっている。しかしながら、実施率からわかるとおり、60歳以上の方々には気安くスポーツが出来る環境は整ってきているが、20代から50代までの実施率を上げるには、もっと「体育協会」と「スマイルクラブ」の連携が必要になってくると思われる。また、子育てをしながらかの参加や、仕事が終わった後の参加が出来るような仕組みを考えていくことも必要になってくる。今後は、健康維持や生活習慣病予防も視野に入れながら、施設を利用しないでも出来るウォーキングや散歩、自宅でのラジオ体操などの普及を、体育関係団体のみならず、健康推進課などと連携を図ることも視野に入れていくべきと思われる。</p> <p>※一番大きな要因は、実施率の目標が国・県ともに現状にあっていない目標を立てていることも含み、高すぎる目標値を設定したことにある。</p>		

2)他団体との比較(近隣市町、県・国の平均と比べて成果水準は高いのか低いのか、その背景・要因は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりかなり高い水準である	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりどちらかといえば高い水準である	<input checked="" type="checkbox"/> 他の自治体とほぼ同水準である
	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりどちらかといえば低い水準である	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりかなり低い水準である	
背景・要因	<p>・茨城県のスポーツ実施率はH26で39.6%、桜川市は39.4%(H27)であり、ほぼ同じ水準である。県内の他市町の状況は水戸市41.1%(H27)、那珂市27.6%(H27)、鹿島市26.0%(H26)、神栖市38.5%(H27)、龍ヶ崎43.2(H25)、取手市39.6%(H23)、つくば市40.3%(H25)、守谷市31.8%(H27)、下妻市36.8%(H23)となっている。各団体でのばらつきは、測定方法の違いによるものでありほぼ同様の数値が出ていると思われる。</p> <p>・国全体の実施率は平成27年度は40.4%となっており、桜川市においてはほぼ全国平均である。</p> <p>※国のスポーツ基本計画によるスポーツ実施率の目標値(平成24年度)は65%、県の目標値は(平成27年度)60%となっている。</p>		

3)住民の期待水準との比較(住民の期待よりも高い水準なのか、同程度なのか、低いのか)、その他の特徴は?

実績比較	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりかなり高い水準である	<input checked="" type="checkbox"/> 市民の期待よりどちらかといえば高い水準である	<input type="checkbox"/> 市民の期待とほぼ同水準である
	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりどちらかといえば低い水準である	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりかなり低い水準である	
背景・特徴	<p>・平成22年度の市民アンケートでは、この施策に対する満足度は平均よりやや高く、優先度については下から2番目となっている。市民の期待は、この施策よりも他の施策へ、満足度もまあまあであり、現状維持項目の中に入っている。しかしながら、施設のお朽化が激しく、財源確保が最優先となってくる。</p>		

7. 施策の成果実績に対しての、これまでの主な取り組み(事務事業)の総括

前年度の取組状況と課題	<p>・27年度は「スポーツに取り組んでいる人」を重点対象に、「安心安全に利用してもらう」「レクリエーションの一環として取り組んでもらう」「スポーツ活動の中心となる人の育成」を重点意図として事務事業を行った。・事務事業の貢献度評価の結果から、27年度貢献した事務事業は「スポーツ少年団育成助成事業」「総合型地域スポーツクラブ支援事業」「スポーツ推進委員運営事業」「体育協会助成事業」「学校施設開放事業」等であった。</p> <p>・「スポーツ少年団育成事業」は35単位団体への育成を目的に、茨城県スポーツ少年団大会参加申し込みや団員募集案内を行い、団員の増加と活性化を図った。27年度より1団体に2人以上の認定指導員が必要となり、認定員養成講習会への参加を促した。</p> <p>・「総合型地域スポーツクラブ」の支援は、平成22年10月に設立し、平成27年度の会員数は268名となっている。市からの取り組み状況は、体育施設の年間予約を優先に行い、12教室がスムーズに開催できるよう働きかけている。また、市民祭でブースを設け、「桜川スマイルクラブ」の各教室やイベント、会員募集のチラシを配付するなど、後方からの支援を行なった。</p> <p>・「スポーツ推進委員運営事業」は、学校施設開放巡回やスポーツ団体合同による研修会を行った。また、奇数月の第一水曜日に定例会を開催し、各種研修会の参加や社会体育の普及振興に関する協議を重ねた。</p> <p>・「体育協会助成事業」は各種団体(29団体)への補助事業やふれあいウォーク桜川やマラソン大会の実施、全国大会への出場支援など広く育成強化を図った。</p> <p>・「学校施設開放事業」は、市内小中学校の体育施設を開放する事業です。27年度は小学校11校と中学校5校で年間41,859人の利用者がある。現在は、使用料の設定はなく無料ですが、27年度の学校開放運営委員会の中で、開放時の使用料の設定について検討され、結論は今年度に持ち越されています。</p> <p>・その他の事務事業では、</p> <p>・「さくらマラソン大会運営事業」は、3月13日に第11回さくらマラソン大会が開催され、市内外から2,641人の参加者があった。今後も、マラソン大会実行委員会により、計画、予算、運営について協議し、更なる安全面の強化やサービスを充実した大会を運営していきたい。</p> <p>・「区体力づくり推進助成事業」は、行政区単位の体力づくりと、三世代の交流も含めた地域内活動であるため、子供から高齢者まで、地域内の親睦が図れる事業です。なお、活動地域が真壁地区のみであったが、昨年度に引き続き岩瀬地区の桜川地区及び平沢地区の活動があり、これをきっかけに、大和地区においても事業が拡大するよう市広報などを通じて、周知をしていきたいと思います。</p> <p>・「国民体育大会開催に向けた国体準備事業」では、茨城国体の機運を盛り上げるために会場地選手強化支援事業やいばらきスポーツアカデミーなどの事業で小中学生を対象にピームラブル教室を行った。今後も体験型のPR事業を実施し、茨城国体に向け機運の向上を図る。</p>
-------------	---

8. 総合計画後期基本計画(H24~)の振り返り

区分	これまでの取組成果	今後の課題(未着手の事業、未達成の理由など)	今後の方針
施策全体	<p>・子どもから高齢者まで、スポーツを通じて健康で明るい生活が出来るよう、スポーツに取り組む人を増し、スポーツ実施率の向上のため、様々な事務事業に取り組んできた。</p> <p>・スポーツに取り組んでもらうために、スポーツをする機会の充実を図り、総合型スポーツクラブ「スマイルクラブ」を設立した。現在順調な運営を行なっている。</p> <p>・多くの人に快適に利用してもらうため、スポーツ施設の充実と有効利用めざし、老朽施設の改修・修繕を実施してきた。民間活用を検討も行なってきた。</p>	<p>・時間的余裕があり年齢的に健康志向が高い高齢者はスポーツ実施率が高いが、20歳代から50歳代の実施率が低く、その実施率を向上させなければならない。・ひと工夫したスポーツ教室の展開</p> <p>・総合型地域スポーツクラブ「桜川スマイルクラブ」への参加者は徐々に増加しているが住民の認知・理解が低く周知作業が望まれる。</p>	<p>・市民が生産にわたって、スポーツ等に親しみ、スポーツをする機会を充実と活動の中心となる指導者やリーダーを育成します。</p> <p>・誰でも安全で快適にスポーツができるよう、スポーツ施設の充実と有効利用を図ります。</p> <p>・健康推進課と連携し、生活の中にスポーツを取り入れるなど、健康とスポーツに関する住民意識を高めていく。</p>
基本事業	<p>①スポーツをする機会の充実</p> <p>・平成22年10月に総合型スポーツクラブ「スマイルクラブ」が設立し、26年度から市の補助金なしで、順調な運営を行なっている。その影響からか60歳以上のスポーツ実施率が50%を超えてきた。気安くスポーツが出来る環境は整ってきている。</p> <p>②スポーツ施設の充実と有効利用</p> <p>・老朽化による施設、設備、器具等の修繕を出来る限り行なってきた。</p> <p>・岩瀬体育館の飽和状態の解消や、市全体で効率的に使用してもらうため、空き時間、他施設への導けるよう、月1回の利用者会議を開催してきた。</p> <p>③スポーツ団体の充実とリーダーの育成</p> <p>・「スポーツ推進委員」「桜川市体育協会」「桜川市スポーツ少年団」「桜川市スマイルクラブ」の主体性を高め充実した活動が行なえるよう支援した。</p>	<p>・高齢者のスポーツ実施率が上がってきているが、20代から50代までの実施率が低い。各教室(スマイルクラブ)の開催日程が社会人や学生たちが容易に利用しやすい時間帯でないため、スポーツを身近に楽しむことが少々困難である。</p> <p>・老朽施設が多く、財源の関係から、全ての修繕が出来ていない。それに伴い、指定管理者制度の導入を検討するまでにまとまっている。</p> <p>・常に指導者、競技団体へのリーダーへ、先端のスポーツ指導・技術情報を配信しなければならない。</p>	<p>・総合型地域スポーツクラブを拡充するには「体育協会」と「総合型」の連携が必要になってくる。</p> <p>・多くのスポーツイベントを支援していく。</p> <p>・安全で快適にスポーツ施設が利用できるよう、老朽施設の改修や施設整備を検討します。</p> <p>・民間活力の活用により、効率的・効果的な施設運営体制の充実を図ります。</p> <p>・指導者・リーダー等の講習会への参加を促し、次世代のスポーツ活動の中心となる人材を育成します。</p>